

魅力ある地方都市圏づくりプロジェクトに関する研究 —ハイブリッドリージョンづくりの考え方と方法—

A Study on Project Planning Method for Establishing
Attractive Region with Local Core Cities
— Focussing on Concept of Hybrid Structured Region —

立命館大学	春名 攻*
日本建設コンサルタント㈱ (立命館大学研修員)	河合 幸雄**
立命館大学大学院	○足立 嘉文***
立命館大学大学院	江本 真吾****
立命館大学大学院	大山 幸成****

By Mamoru HARUNA, Yukio KAWAI, Yoshifumi ADACHI, Singo EMOTO, and Yukishige OYAMA

地方部において自立圏域の形成を考える上で、地方の産業振興、人口の定住化は大きな課題であり、魅力的な生活・産業活動環境の整備が非常に重要だと思われる。すなわち、職・住・学・遊の複合的機能整備とその地方の持つ歴史文化的特徴や自然や地形などの風土的条件を有した歴史的・風土的都市環境の整った地域づくりが望ましいと考える。そこで、個々の市町村単独では難しかった整備をそれぞれの市町村が特色を生かし、多様な機能及び施設をハイブリッド（混成）化して拠点的・分散的に整備し、広域的な連携・協調体制を整える方法を計画論的に考察する。さらに、自立した魅力ある地域・圏域づくりを目指す方法についても考察し一つの提案を行うこととする。なお、本研究では、滋賀県の湖北・湖東地域を対象として取り上げることとする。

【キーワード】都市・地域計画、広域圏、ハイブリッド化

1. はじめに

近年、大都市から比較的離れている地方圏域では、次のような時代背景のもとで地域開発整備の側面において強い期待と脚光を浴びている。

- ①四全総にもみられるように国土の均衡ある発展を目指した人口の分散居住、産業の地方への分

散、さらには国家機関より地方自治体への権限委譲の動向は、地方の自立的発展を強く要求するようになった。

- ②高度経済成長期を中心に形成された大都市における生活環境の悪化や産業活動環境の悪化に対し、都市の土地利用や都市施設の見直し、さらには産業構造のリストラクチャー等を必要とするようになったことに起因し、地方が都市住民の転出先や産業の移転先としての受け皿として重要視されるようになってきた。

- ③大都市居住をはじめとする国民が生活のゆとりを求めてリゾートトリクリエーション行動の範囲の拡大や多様化を要求するようになり、自地域

* 理工学部環境システム工学科 0775-61-2736
 ** 大阪支社 技術2部第3課 06-358-0951
 *** 理工学研究科土木工学専攻 0775-61-2736
 **** 理工学研究科環境システム工学専攻
 0775-61-2736

にはない自然環境や歴史・文化的環境を求めて地方を訪問するというモビリティのめざましい向上が現れてきている。もちろん、これらを支える高速交通体系（地方空港の整備、新幹線網の拡大、高規格道路網の充実）がこれらからの実現を可能なものとしている。

- ④近年、構造的に問題を有する地方の産業の活性化への強い要望や若年層を中心とする人口の減少への不安を背景として、新規産業の導入や地場産業の育成という産業政策や地方の都市化の推進並びに若者の人口定住のための職・住・学・遊のバランスのとれた魅力ある地域・施設整備の促進という地域づくり政策など地域住民や地域産業界等から強く望まれるようになってきた。

以上のような時代背景や社会的潮流の変化をうけて、本研究では、良好な地域特性や地域条件を活かした地方拠点都市地域を形成する一大地域整備構想の策定に関する研究を目指すこととした。

2. 研究の基本方針

先に述べたように、地方拠点都市地域を形成する一大地域整備構想の策定の最終整備目標を、「豊かな社会環境と新しい魅力的な生活空間の創出並びに発展的で活性的な産業の育成」であると考えている。そして、この目標実現のために、

- ①都市社会様式と田園農山村社会様式
 - ②自然環境と人工環境
 - ③先端的都市文化と伝統的地方文化
 - ④先端的新規産業と伝統的地場産業
- 等々、これまで相反すると考えられてきた要素の感覚的融合や混在を目指し、魅力的でかつ活性的な「ハイブリッドアーバン」の形成をこの広域圏において目指そうとするものである。

研究を進めるに当たっては、

以下のような基本方針を都市・地域形成に関する計画論的検討のために設定したが、後の研究活動はこのような4つの基本方針に立脚して進めることとした。

- ①地方拠点都市地域全体を、一つの広域的な地方都市圏と捉えて検討を行う。
- ②職・住・学・遊の機能をハイブリッド（混成）化して拠点的・分散的に整備し、広域的な連携・協調体制を整える方法を計画論的に考察する。
- ③具体的な調査研究活動は、図-1に示すフローに従って進める。
- ④最終的には、「拠点都市地域に対して、自立した魅力ある地域・圏域づくりを目指す方法」について考察し試案をまとめことを目標とする。

地方拠点都市整備を構想するに当たって、地域・圏域の課題・問題点を把握するために、まず地域現況、地域条件、社会基盤整備等の現況調査を行い、それらを踏まえて、現在計画中あるいは実施中のプロジェクトの中で、圏域全体で協調的に整備できるもの、圏域内で機能・施設等の共同利用ができるものに関して検討すると共に、これらを勘案した構想・計画を行っていく必要があると考えられる。もう一方で、近年の社会潮流や時代背景のもとでの地域

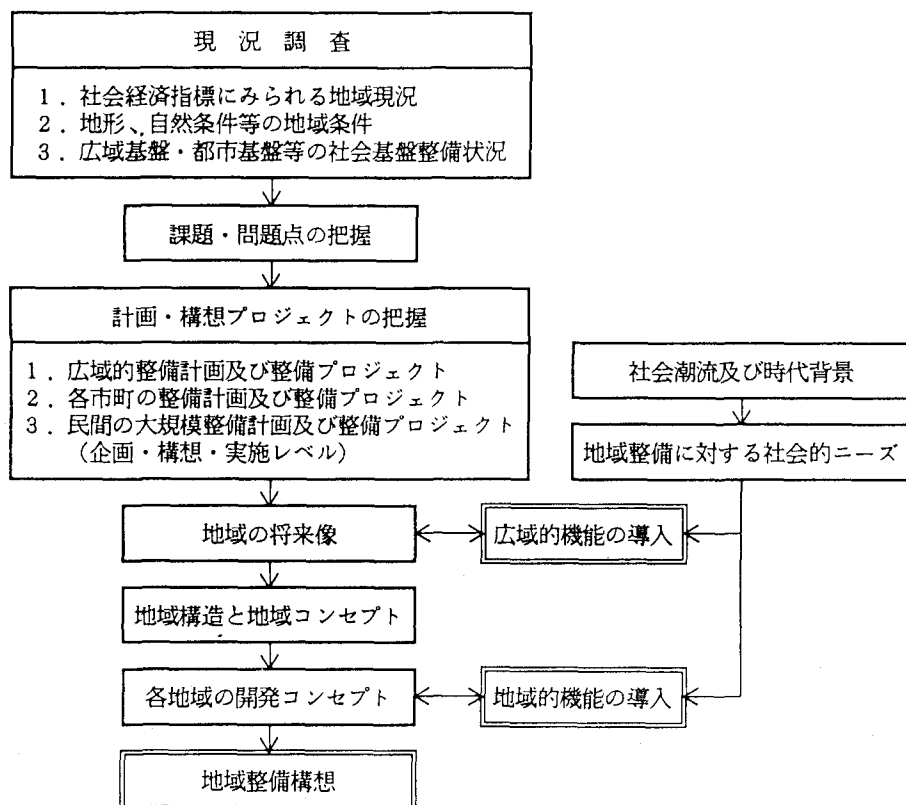


図-1 調査検討フロー図

整備に対する社会的ニーズより広域的・地域的機能の導入の検討を行っていくこととする。

(1) 中心核となる都市化地域の整備方針

そこで、今まで大都市、中都市に依存してきた社会的機能、経済的機能を都市化地域に集中的に整備し、当該地方拠点地域の他地域からの自立を図ることを目指すものとする。さらには、人・物・金・情報等の交流拠点としての新しいタイプの社会・経済機能の立地や、他地域にはない新規都市機能や施設整備を図ることによって、広域圏全体が新しいステージでの発展を図るトリガーとなることを目指すものとする。目指す機能、性格を有する都市に誘導整備していくには、新しい機能を導入したり既存の機能を強化する必要がある。そのためには相当のボリュームをもつ都市拠点の整備が有効な施策であり、旧国鉄用地や企業の低未利用地、遊休地を活用し、新しい都市拠点を整備することが都市政策として必要である。

従って、都市拠点整備に当たっては、まずまちづくりの観点から当該都市の現況と課題を整理すると共に、将来どのようなまちに誘導していくか等について、基本的な方向性を明らかにする必要がある。

この方向性を実現するために、都市拠点地区にどのような機能を新たに導入するか、強化するかを検討し、コンセプトとして取りまとめることとする。当然その際、都市圏内の都市拠点、都市機能の広域的な配置について、バランスのとれたものになるように配慮する必要がある。そのためには、まず従来の中心地であった彦根市・長浜市の両市が伝統的特性を損なわないように再開発・新規開発を行い、圏域の中心都市としてその都市機能の高度化を図り、全地域をリードすることができるようなポテンシャルを具備することであると考えられる。

(2) 分散核の整備方針

広域圏の中心核となる都市化地域の考え方は前述のとおりであるが、その他周辺の自治体では都市化地域に整備される高度な都市機能とは別の日常的都市活動、あるいは生活活動が十分に充足されるだけの都市機能の整備が必要であると考えられる。もちろん重複する生活圏内の無駄な都市機能の整備は避

けるべきであると考えられるし、協調体制の下での共同利用を促進すべきであると考えられるが、可能な限り生活圏内での住民や企業のニーズを充足する都市機能の整備は必要であると考えられる。

このようなことから、行政等の要望を可能な限り取り上げると共に、圏域の全体構成の概念を効果的に実現する形に調整あるいは修正・変更し、実現化のためのプロジェクトとして立案・事業化していく必要がある。さらに、広域的な観点から必要と思われる都市施設や基盤施設に関しては各町のニーズや町民、地場産業活動を効果的に支援・誘導できるように計画したり、事業化することも必要である。また各町においては、文化背景、自然環境等を考慮して明確な位置づけを行い個性豊かなまちづくりを行っていく必要がある。

以上のようなことを踏まえて、現在計画中あるいは実施中のプロジェクトの中で、圏域全体で協調的に整備できるもの、圏域内で機能・施設等の共同利用ができるものに関して検討すると共に、これらを勘案した構想・計画を行っていく必要があると考えられる。

3. 地方拠点整備構想化についての実証的検討

－琵琶湖ハイブリッドアーバン構想について－

上述の基本方針に基づいて、図－2に示す本研究の対象地域として取り上げている滋賀県琵琶湖東北部地域は、優れた地理的条件や自然条件を有し、豊富な歴史的・文化的資源の存在する地域である。さらに、高速道路をはじめとする道路施設や在来線の鉄道施設が十分に整備された極めて良好な条件を有する地域でもある。それにもかかわらず、戦後の工業化をはじめとする経済発展に取り残されてきたと、感じられているが、そのような地域が、四全総等の社会潮流や時代背景のもとで地域開発整備の側面において強い期待と脚光を浴びている。

(1) 琵琶湖東北部地域の各市町の現況認識

－行政へのアンケートに基づく整理－

琵琶湖東北部地域拠点都市整備を構想するに当たって、個々の市町を魅力あるものにするためには、まず各市町が現状の都市整備状況と今後望まれる都市整備に関してどのように認識しているかを、企画

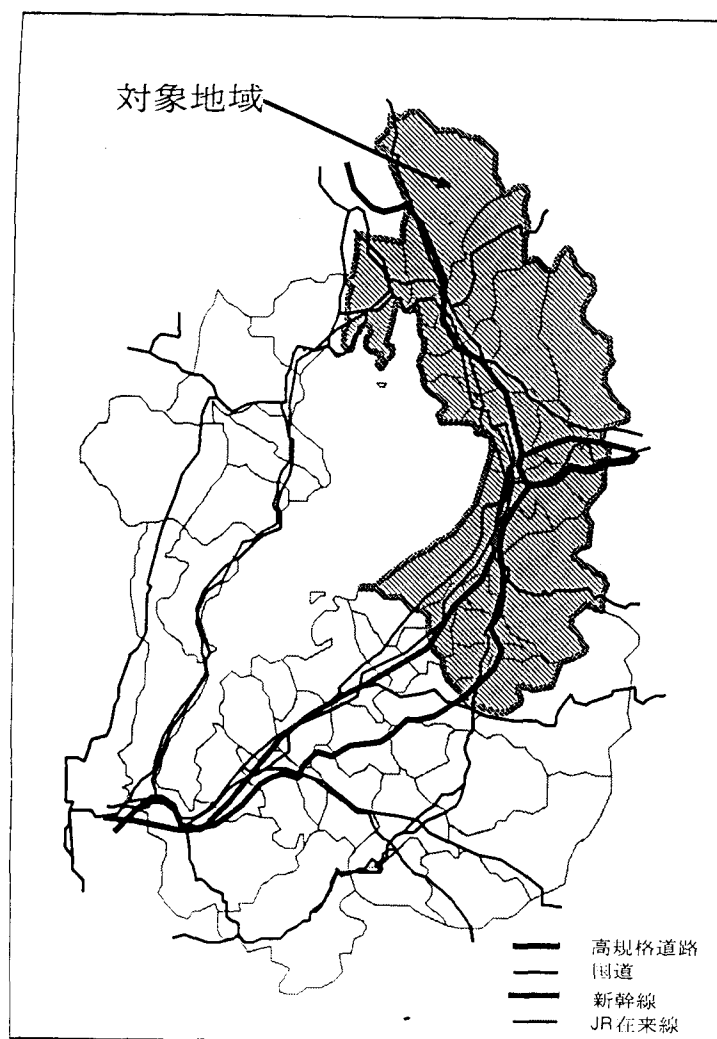


図-2 対象地域図

表-1 アンケート調査結果表（整備要望）

広域交通機能		工業機能	
・ヘリポート ・国道8号及び307号バイパス ・琵琶湖環状線 ・湖上交通 ・鉄道 ・路線バス ・ICへのアクセス道路 ・幹線道路整備 ・湖北地域のJRの電化 ・湖岸道路の整備		・試験研究機関 ・企業ニーズにあった研究施設 ・共同研究体制の構築 ・産官学の橋渡し機能 ・大規模工業団地 ・ハイテク関連企業	
商業機能		医療福祉機能	
・商業集積地 ・再開発等による商店街の整備 ・商店の個性化、専門化 ・商店の共同店舗化 ・商店のレクリエーション施設との共同化 ・集落内小規模店舗 ・大型店の立地 ・駐車場完備の店舗 ・広域的商圏をもつ商業施設		・リゲインハウス ・保険・福祉・医療が一体となった施設 ・特別養護老人ホーム等、高齢化社会に向けての施設 ・老人保健施設 ・総合病院 ・地域福祉センター（デイサービスセンター、リハビリセンター）	
農林水産業機能		リゾートレクリエーション機能	
・産物の特産品化 ・リゾート農漁業 ・1.5次産業化の開拓 ・土地生産性の高い知的集約的型農業の確立 ・集出荷機能施設 ・水産加工場 ・農産物流通加工施設 ・農林業基盤整備（圃場整備、林道整備）		・自然を活用したリゾートレクリエーション施設 ・受け身の観光行動だけでなく目的型・体験型のリゾート施設 ・宿泊施設 ・公園施設 ・アミューズメント施設 ・湖岸キャンプ場 ・単発的でなく総合的なレクリエーション施設	
		教育文化機能	
		・美術館、博物館 ・新しいタイプの大学等の高等教育機関 ・文化ホール ・図書館 ・歴史民族資料館 ・生涯学習センター ・屋内プール	

課等のその市町の活性化に携わってる方々にアンケートを行なった。アンケート調査により整理（表-1）し、各市町におおよそ共通するいくつかの整備課題に関して述べることにする。

- ①中心都市である彦根市・長浜市を除く各町では全般に都市機能・施設の整備が立ち遅れているため、他地域の高度な都市機能へのアクセスに便利のように広域交通基盤の整備もしくはそれらへのアクセス関連（道路、バス路線）の整備。
- ②各市町内での大規模商業施設整備、リゾートレクリエーション施設や教育文化施設などの整備。
- ③各市町で対応できる医療・福祉施設の整備。
- ④農業を産業の中心としている町の農業関連施設の充実。
- ⑤工業団地の整備や研究開発機能を持つインダストリアルパークのような機能の整備。
- ⑥観光地、リゾート地をもつ市町の大衆的な宿泊施設の整備。

（2）地方拠点都市整備の整備方針

a）広域的な位置づけ

各市町の総合計画及びその他の上位計画にみら

れる整備目標を参考にびわこハイブリッドアーバン形成のための整備方針とコンセプトについて簡単に述べていくこととする。

まず、圏域の特性から次の2つの点が整備の基本的な視点として重要であると考えた。

①広域ネットワーク拠点としての広域圏整備

琵琶湖東北部地域の整備の第一の視点は、一言でいえば様々なレベルでの広域的ネットワークの要となる地域としての整備を図るという点である。具体的には図-3に示すように琵琶湖東北部地域と周囲を結ぶ主要軸であり、各々のネットワーク機能を強化する方向での広域圏の整備が求められる。

②都市連携による広域圏整備

琵琶湖東北部地域は、彦根市を中心とする湖東地域、長浜市を中心とする湖北地域の2つの地域で構成されているが、この2つの地域はそれぞれ独自の歴史的なまとまりと個性を有している一方、人口の流動や産業の連帯、文化等の面で、相互の関係も深い地域である。

この現況を踏まえた広域圏整備の考え方としては、

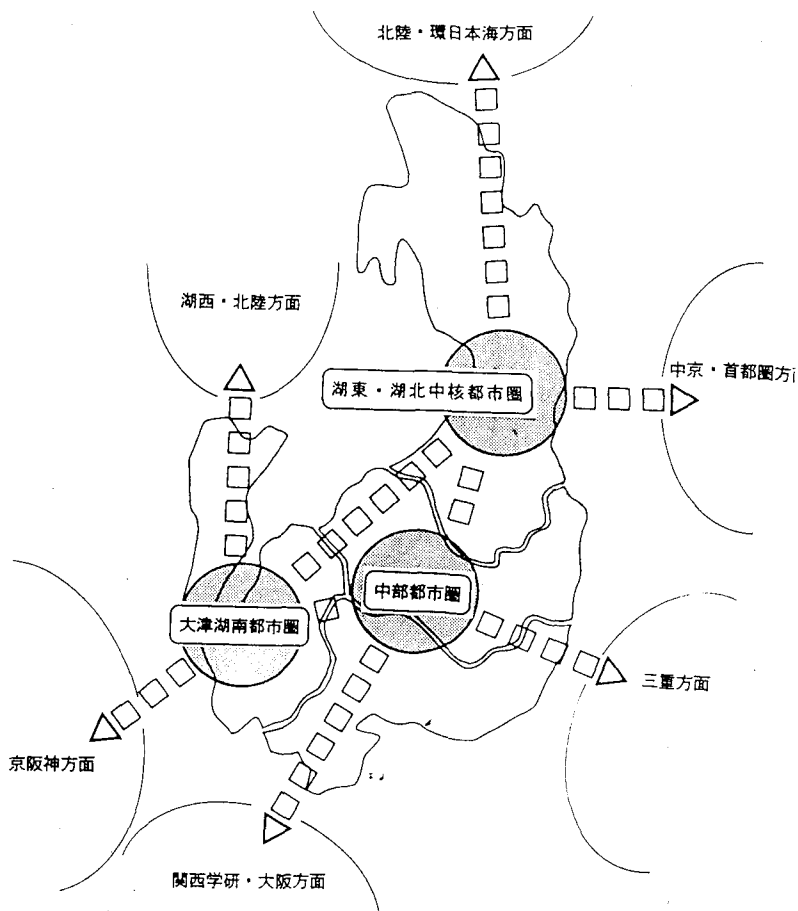


図-3 広域圏構造と琵琶湖東北部地域の位置づけ

「琵琶湖東北部地域拠点都市圏」のもとに連合体としての広域圏の形成を目指すことが適切であると考えられ、広域圏の内部構造のイメージを図-4に示す。

b) 広域圏の整備方針

広域圏の地域ごとの個性に着目すると、大きくは、近世の都市建設に源をもつ豊かな都市機能の集積地域、地域ごとの核となってきた市街地や産業の立地する地域、豊かな田園地帯として発達してきた地域、琵琶湖岸の水辺ゾーンや伊吹山をはじめとする山地地域などの自然環境地域等に区分できる。これらのことから、次の4つのエリアを設定し、図-5に示すように個性ある地域形成を図っていくべきであると考えた。

①都市圏拠点ゾーン

- 彦根市、長浜市の中心市街地地区とそのあいだには含まれる米原町、近江町を含み、適切な機能分担により広域圏全体のコアとなる地域として整備する。

- 恵まれた自然や歴史資源を生かした、美しく個性的な景観づくりや便利で楽しい商業機能の整備、都市的基盤整備や、新市街地の開発等を積極的に推進し、快適で潤いのある活気に満ちた都市コアを形成する。

- 国土レベルの結節点機能を踏まえた都市機能の整備誘導を図る。

②産業・レクリエーションゾーン拠点ゾーン

- 広域圏における副拠点と位置づけ、都市圏ゾーンと補完・連動を図りながら、多様な都市機能の充実整備を図る。

③田園文化生活ゾーン

- 水稻を中心とした都市均近郊農業を営む地域として、快適な農村環境を整備すると共に、地域生活核の形成を図ることにより、日常生活の利便の向上と都市的サービスの提供を行い、農村風景と都市的機能の融合・調和を図る。

④自然環境保全・共生ゾーン

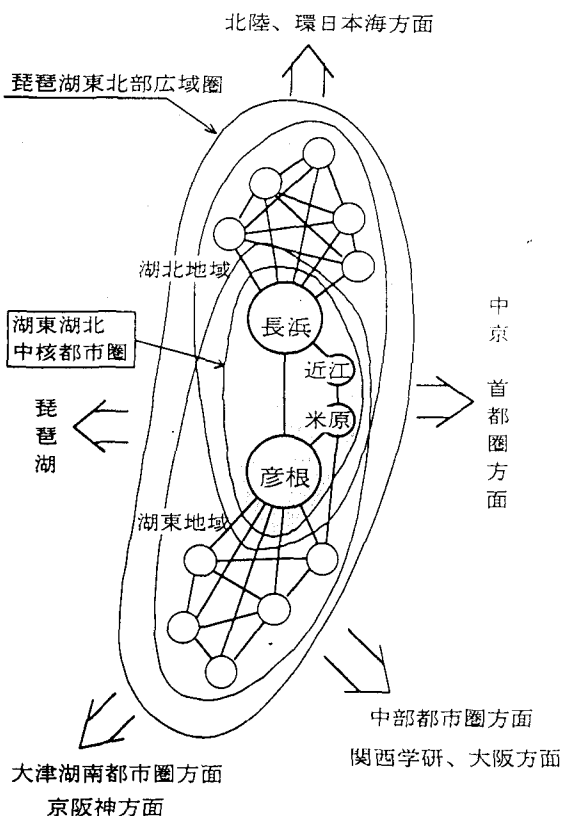


図-4 琵琶湖東北部地域広域圏内の都市連携と圏域構造の概念図

・ 国定公園、自然公園の広がる山々や広域圏の重要な資源である琵琶湖とそれに注ぐ多数の河川など、自然環境保全・共生を基調としながら、それらを活用し、人々に潤いとやすらぎを与える場を提供する。

以上のゾーン分割において、広域的に整備する機能・施設として幹線道路の整備、国道8号線バイパス等、広域交通網の整備についての検討が必要である。また広域的な整備として旧街道沿いの歴史的文化財を利用した観光整備を進め、同時に湖岸リゾート、山岳リゾート（スキー、高原リゾート）の一体的な整備が必要とされ、これらハード面での整備とあわせ各市町での文化的なイベント等を年間を通じて行っていくべきであると考えられる。

c) 各地域の整備方針

ここでは、琵琶湖東北部地域の中心核となる都市化地域とその周辺町の分散核となるべく地域の整備方針を述べる。

① 中心核となる都市化地域の整備方針

琵琶湖東北部地域の従来の中心地であった彦根市・長浜市の両市が伝統的特性を損なわないように再開発・新規開発を行い、圏域の中心都市としてその都市機能の高度化を図り、全地域をリードすることができるようなポテンシャルを具備することであると考える。

また、両市の中間地帯に存在する米原町・近江町は従来の一次産業中心の田園都市の特性を活かしつつ、町域内の土地・空間の用途の変更や新規開発を

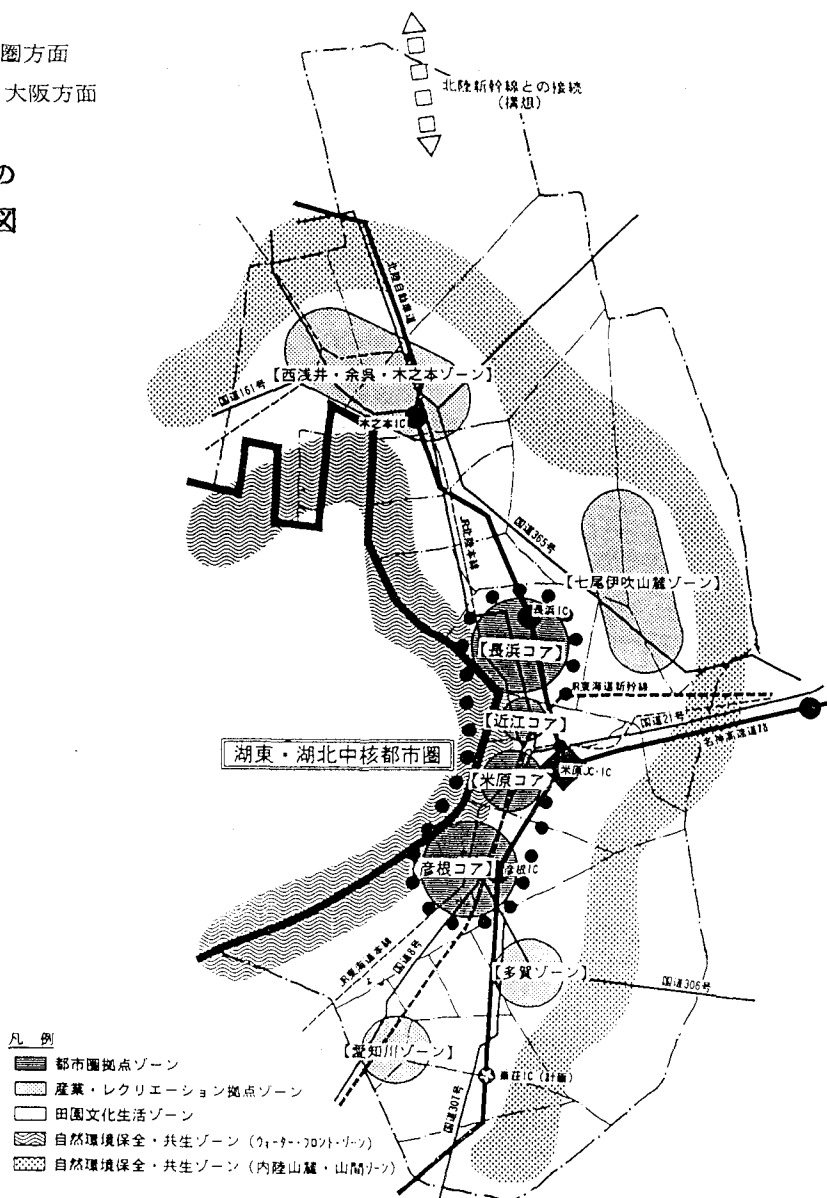


図-5 琵琶湖東北部地域広域圏の都市構造図

行い、両市の機能を補完したり両市ではもち得ない都市機能を迅速に整備すべきであると考えられる。

以上のような考えのもとに中心核となる都市化地域の圏域構成を図-6のような概念図で表すこととした。また、都市圏の多様かつ総合的な機能を強化

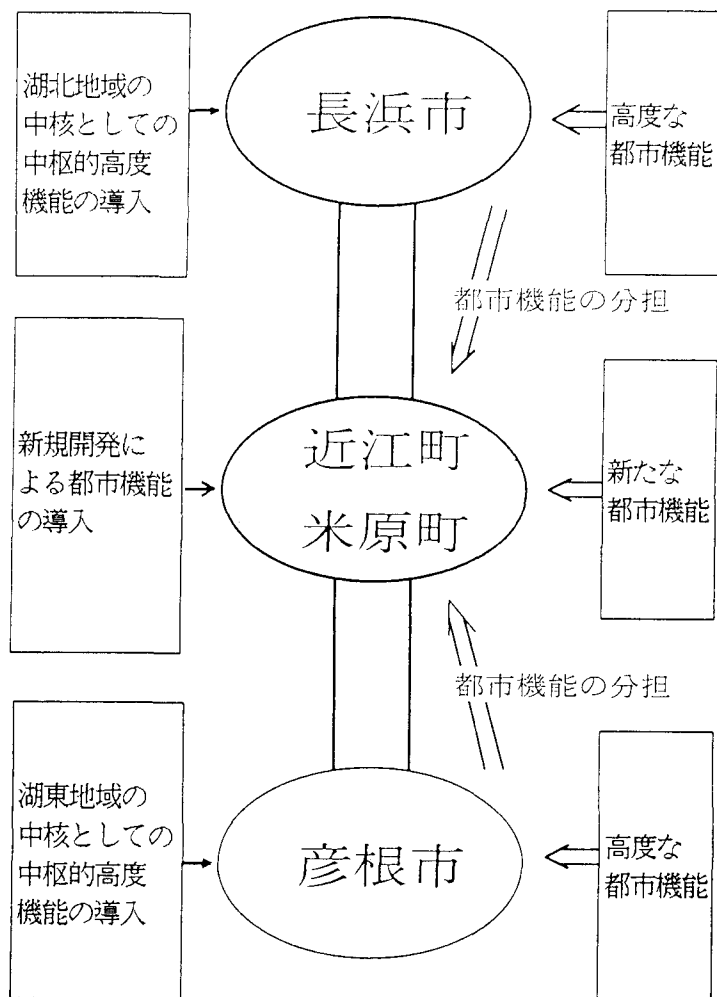


図-6 中心核における圏域構成の概念図

する上で、中核的な機能を担うべき彦根コア、長浜コア、米原コア、近江コアの4つのコア相互の機能分担と連携を図ることが重要である。そのためには、都市圏内の核コアが共通して持つべき機能（共通機能）と、個性化を通じて都市圏の多様性を形成していくべき機能（個性機能）の2つの視点から、機能分担のあり方を図-7のように整理する。

・共通機能

核コアが整備すべき共通機能としては、湖岸や山地、田園等の共通する豊かな自然環境を活かした居住、産業集積、歴史ネットワーク、湖岸・田園リゾート等の機能充実である。これらの共通機能の整備により、都市圏として一体的

な地域イメージの形成を図ることが可能である。

・個性機能

個性化の軸としては、各都市が整備充実を進めるアミューズメント機能、玄関口機能、学術研究機能、新たな産業集積機能など、地域資源や立地条件を活かした個性的な都市整備と適切な機能分担が必要と考えられる。

②分散核の整備方針

分散核としての整備は、第一に生活基盤に関わる整備を優先し、さらに魅力あるまちづくりのための個性化を図るべき整備を推進するものであるが、そのためには各市町の現況及び要望を十分に把握し、共同利用施設の選定、協調体制の確立など行わなくてはならないと考える。

なお、今回の研究では、分散核で検討すべき導入機能または施設について省略することとする。

(3) 地方拠点都市整備の効果的実現のための提言（ハイブリッドアーバンに対する2、3の提言）

上述のような整備方針を考慮し、以下に地方拠点都市整備の効果的実現のための提言を示す。

a) 地域マネジメントセンター（米原地区に置く）の設置

地域づくりや行事・イベントなど各市町や住民・企業の参画のもとでの交流センター・マネジメントセンターの役割を果たす。そして、企画・事業化計画化、事業運営・維持管理を役割とする。

b) 産業構造の改革や新規産業技術の創出・導入を目的とする2つのセンターを設置

①彦根市域の大学を中心とする先端技術開発や産業政策を研究し、当地域の支援センターとしての役割をもつ。

②長浜市域を中心に地場産業への先端技術の導入や普及、並びにそれらの先端技術を導入した生産・販売など、マネジメントの技術の促進を支援したり、先端的産業の当地域への立地を研究するセンターを設置する。

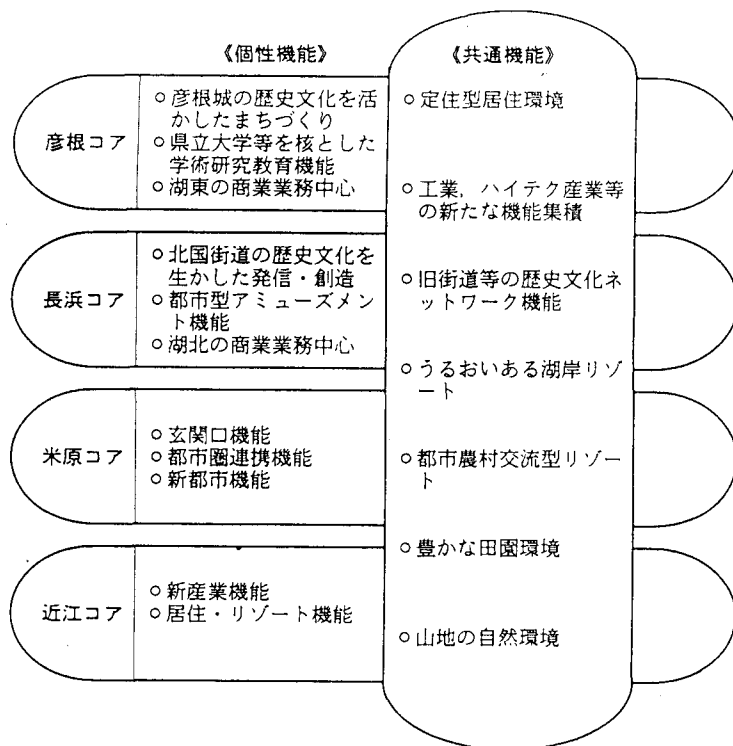


図-7 4つのコアの機能分担イメージ

c) 広域にわたる地帯開発の構想

①リゾート開発関連

・湖岸リゾート地帯の開発

マリーナ、ホテル、湖岸型商業・サービス施設

・歴史街道文化観光地帯の開発

北国街道・中仙道その他

・山麓リゾート・農村リゾート地帯の開発

・各町行事の年間を通じての連続的開催

②産業団地開発とその関連

4. おわりに

本研究では、魅力ある地方都市圏形成を目的とし、圏域内のネットワーク強化及び地域の機能分担化を目的とし、研究を行なった。そこで、現況把握の段階で対象地域である琵琶湖東北部地域の各市町にアンケート調査を行ない市町村レベルでの機能等の整備の状況および要望等の意見をまとめた。次に広域的都市圏構想の段階では、広域圏の中核的役割を果たす地域を中心核とし、広域的に分散核が散らばっていると考え、それぞれの果たす役割、また、それぞれを結ぶネットワークの強化によって圏域形成の考察を行なった。そして、各市町の魅力化に関して

は、広域圏での果たす役割とその地域が持っている特色等の考慮が必要であると考え、現段階では、地域が抱える人口の定住化に着目し、その整備に関する職・住・学・遊の機能について考察した。

これらの考えは、市町村の壁を取り払った地域活性化の方策の一つとして提案するものであり、各市町村の個性化についての具体的な方策が望まれると考えられる。

今後の課題としては、さらに地域の特色を活かした魅力化に関する分散核および周辺地域の整備の方法等の諸問題に取り組み、また地域構造の分析についても行ない、地域への導入機能の検討に取り入れていきたいと考える。

最後になりましたが、本研究を進めていくにあたって貴重なご意見をいただきました滋賀県企画部企画調整課の山岡氏、情報統計課の藤澤氏、びわこハイブリッド・アーバン推進協議会の方々、また、アンケート調査にお答えいただいた琵琶湖東北部地域の2市19町の企画課等の担当の方々に心から感謝します。

【参考文献】

- 1) 土木学会 建設マネジメント委員会プロジェクト計画小委員会プロジェクト企画分科会：魅力ある地方都市圏づくり－調査研究報告書－、1993.12
- 2) (財) 滋賀総合研究所：SHIGA 主要プロジェクト、1994.2
- 3) 琵琶湖東北部広域市町村圏協議会：琵琶湖東北部新広域市町村計画、1991.3
- 4) (財) 区画整理促進機構：米原地区都市拠点総合整備事業計画策定調査報告書、1994.3
- 5) 米原アミティ：彦根、長浜、米原から見たまちづくり、1994.3
- 6) 滋賀県：湖国21世紀ビジョン、1992.3
- 7) 兵庫県都市住宅部：但馬地域都市整備方針、1993.3
- 8) 京都府：京都中部地域整備構想、1993.3
- 9) 大友篤：地域分析入門、東洋経済新報社、1982.3